

佳水園 ウェスティン都ホテル京都

Kasuien The Westin Miyako Kyoto

No. 03-078-2023作成

改修・保存
ホテル

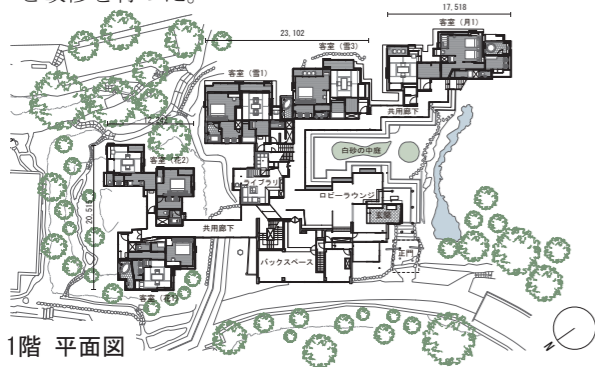
発注者	近鉄不動産株式会社、株式会社近鉄・都ホテルズ	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	株式会社大林組、全日本コンサルタント株式会社（構造）、中村 拓志 & NAP 建築設計事務所（客室監修）	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

未来につながる数奇屋建築の保存改修

佳水園は村野藤吾設計の近代数寄屋の傑作である。文人画を想わせる急峻な崖の庭園を抱き込み、低く薄い屋根が幾重にもかかる建築は、築60年を経て今なおその美しさを伝えるが、老朽化のため耐震改修を必要とした。そこで外観や庭は保存修復し、ロビーなどの共用部は復原、客室は佳水園の魅力を最大化しつつ現代的な宿泊機能へと改修を行った。



佳水園「白砂の中庭」を望む。※1



1. 佳水園と文人的世界観

佳水園以前に、この地には元首相・清浦奎吾の別邸「喜寿庵」とその庭園があった。華頂山に続く岩盤にしがみつくような赤松の林に、琵琶湖疏水を利用した滝が静かに流れ落ちる庭は、七代目小川治兵衛(植治)の長男、白楊が清浦奎吾のために作庭したものである。南禅寺界限別荘群の疏水を用いた庭園の中でも、最も急峻で山水画的庭園だ。村野藤吾は、この庭園を継承・発展させて、滝の上の深山に建つ仙人の庵のごとき「月7」の客室とそれに連なる建築群を、急峻な地形に漂う雲のように浮遊させた。低く薄い幾重もの屋根や差し石を省略した足回りなど、軽やかさを強調する佇まいからは、慎しさと無常観に満ちた文人的自然観が伝わってくる、この庭園と一体となった文人的世界の構築こそ、佳水園の最大の魅力である。

2. 文化的価値の継承

庭園と外観は竣工当時の材料を踏襲し、伝統技法を交えながら復原、共用部は耐震性能や防火防災性能を現行基準に適合させつつ村野藤吾の意匠を維持した。一方、客室は耐震補強を行うとともに2室を1室に統合。現代の宿泊機能を満たすよう全面的に改修を行い、充実したバス空間を持つベッドスタイルへと拡充した。ただし先達の感性や手跡を敬いつつ、新たなデザインへ昇華することで、既存建築と違和感なく調和させた。また、新設した襖の唐紙は庭木や風景に呼応させ、雲母で摺られた桜やもみじが腰張りの疏水に落ちる表現とするなど地域の歴史や風景との再接続を図った。単純な美装や保存再生によらずに、佳水園の文化的価値を次代へと継承した。

3. 「村野数寄」

「村野数寄」の特徴は、佳水園の箕甲の薄い屋根が木造と鉄骨のハイブリッドであるように、伝統的数寄屋を工業技術によって、繊細で流麗な空間へ昇華することにある。そこで「村野数寄」の精神を継承し、壁には繊細かつ耐久性を強めた真鍮小舞の下地窓を設け、空間の奥行きと明るさを実現。極小照明を天井の竿縁に内蔵することでペンダントライトを排した。立体和紙とLEDにより縮小した村野ブラケットライト、七宝編みのナイトランプなど、先端技術と工芸を調和させることで、より流麗かつ機能的な客室とした。

建物データ

所在地	京都府京都市東山区
竣工年	2020年
敷地面積	約54,800㎡
延床面積	1,617㎡
構造	木造、RC造
階数	地下1階、地上2階

外観の保存

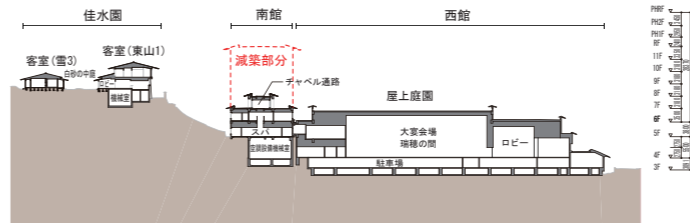
外観と庭は竣工時の意匠を保存した。2寸5分勾配の銅板屋根は耐久性を高めるため銅板を0.27mmから0.35mmとして一文字葺きで全面葺き替え、入母屋の妻面の小端はオリジナル同様に箕甲の手法で折り曲げた。鬼瓦は既存を一部利用し薄い軒先の鉄骨補強も再利用した。また、外壁の左官仕上げは竣工時の色を再現した。正門の檜皮葺は伝統工法により葺き替えた。

共用内部の復原

共用部は村野藤吾の意匠を維持・復原した。3寸2分の見付のトガの柱や造作木材は残置美装し、木製の外部建具は補修し、落とし込みのガラスとともに再利用した。絨毯は竣工時の色を復原。天井は不燃材で再現し、吹出し口や照明Boxは補修後再設置した。座面の低い特徴的なラウンジチェアは、状態のよい部材を留め接いで補修し、床と合わせた藤色の張地とした。

客室の改修

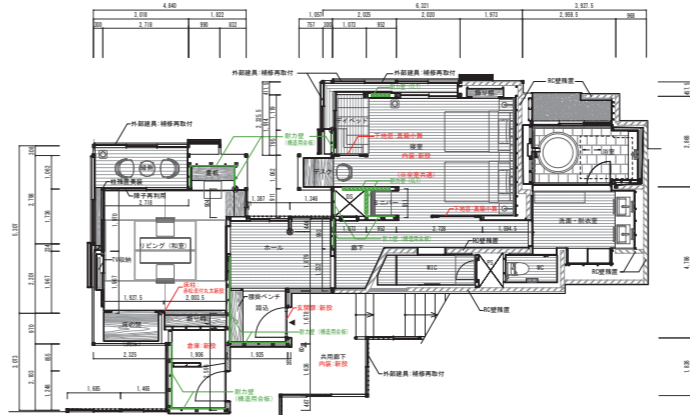
客室は2室を1室に統合し、改修前の20室と宴会用大広間の3室を合計12室の客室へと変更した。共用部には、村野藤吾の書籍や資料を中心としたライブラリーを新設した。南館の減築により眺望を得た大広間は瓦風タイル敷のテラス型客室として生まれ変わらせた。



東面鳥瞰

客室の拡充・改修

客室は現代の宿泊機能を満たすようソファとベッドのスタイルとし、広々とした温泉付きバス空間、キャリーケースを運ぶ時に仕上げを傷めないように玄関近くに設けたクローゼットなどを設け、一部屋ごとに異なる間取で納めた。



客室「月1」平面図

設計担当者

大林組 建築：稲葉一秀、設備：久山拓・平野智将・秋山典子
全日本コンサルタント 構造：岡本森廣*・釜友晃行（*元所員）
中村拓志 & NAP建築設計事務所 客室監修：中村拓志・平川祐生・宮地国彦*・羽田崇人（*元所員）

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (CLT, CFRTPの強化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (歴史性の継承、庭園との一体化)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (庇の深い外装)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然換気、自然採光、敷地内温泉利用)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (既存木造躯体の継続使用)



屋根ディテール※1



正門檜皮葺の施工風景



ロビー・中庭※1



4階分減築※1



客室「東山2」リビング※2

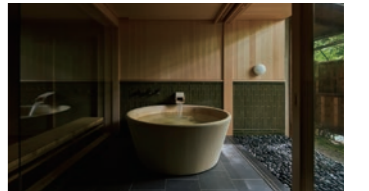
4階分減築した南館ごしに、佳水園建設当時の京都市街の眺望が再現された。



客室「月1」寝室※2



客室「月1」リビング※2



客室「月1」浴室※2

※1: プライズ / 山崎浩治
※2: TOREAL / Koji Fujii